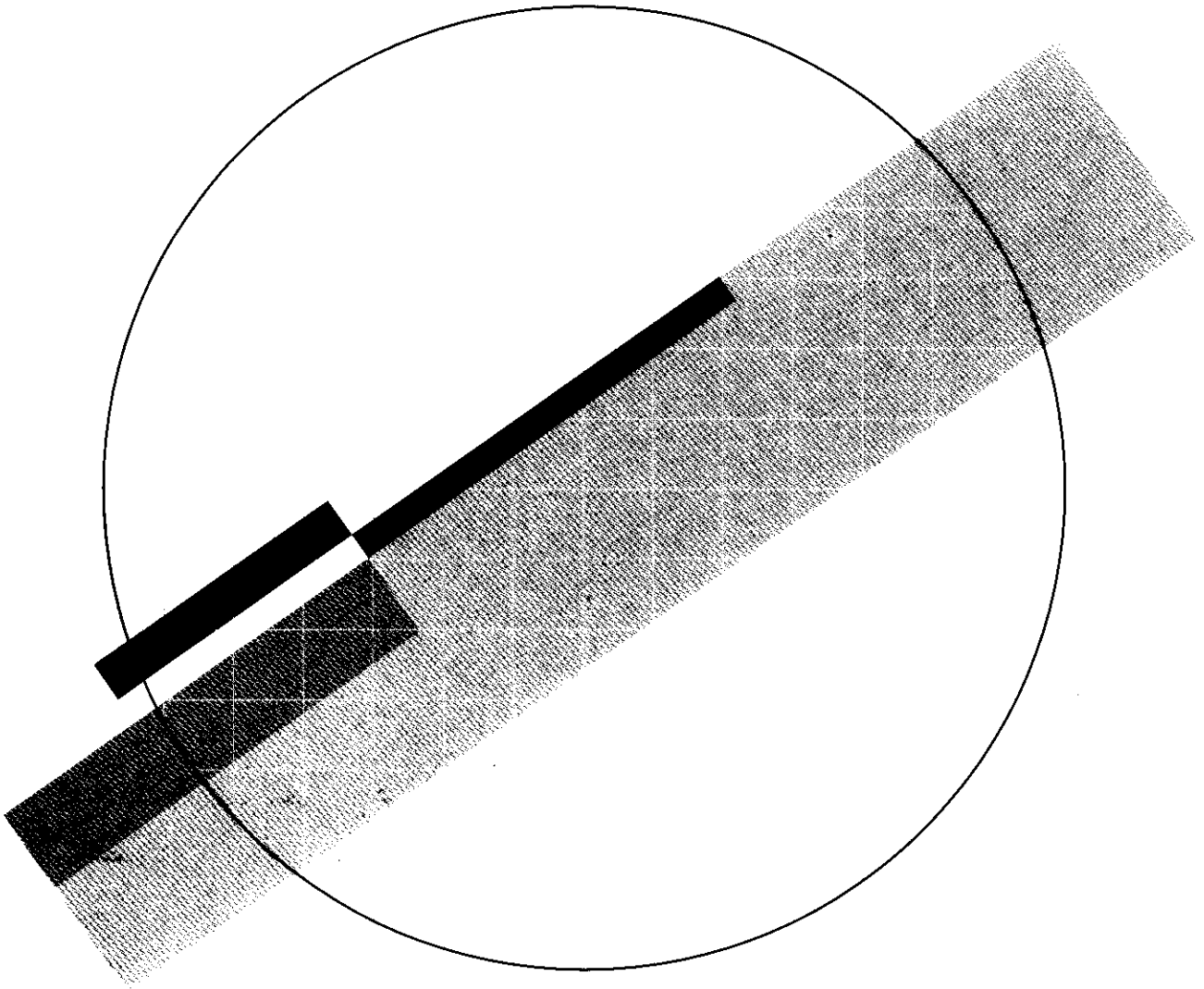


平成12年度厚生労働省科学研究費補助金政策科学推進研究事業
少子化の要因と地域分析に関する調査研究

報告書



まえがき

わが国の合計特殊出生率は、伝統的多産体制から近代的少産体制への出生力転換を終えた後、1970年半ばに置換水準を割って以来、今日まで新たな低下局面に入っている。一時的であれ反転の兆しをみせ、84年にはなお、1.81を維持していたものの、89年以降は人口動態統計史上の最低記録の1.57と低下した後、95年には1.42と、人口を維持するのに必要な水準である2.08を大幅に割り込んでいる。この出生水準は先進国中、イタリア、スペイン、ドイツについて低いものとなっている。

少子化のもたらす問題は、子ども自身への影響にとどまらず、将来の労働人口の減少や年金などの社会保障費用に係わる現役世代の負担の増大、経済成長率の低下、若年労働力の減少による社会の活力そのものの減退等の影響が懸念されている。そのため、一連の少子化関連対策が打ち出されている。しかしこの活発な政策的動きにもかかわらず、出生率は低下し続けている。この少子化現象を少しでもくい止めることが、わが国の政策上緊急かつ重要な課題となっている。

ところが、都道府県レベルにおいては、合計特殊出生率の最も高い沖縄県（1.81）と、最も低い東京都（1.05）との間においては大きな開きが生じている。同一都道府県内においても出生率の差は一様でなく、北海道内においても合計特殊出生率の最も高いT市（1.73）と、合計特殊出生率の最も低いS市（1.18）では、出生率において大きな差異が生じている。このように地域によってその出生率に大きな差異が認められており、このような地域間の大きな違いをもたらす要因については必ずしも十分に検討されているとは言えない状況にある。したがって、乳幼児を持つ母親の子育て意識・困難との関連で総合的に検討したものは極めて乏しく、地域特性を踏まえながら、その地域間の格差に注目した分析はほとんど認められない。地域の視点から少子化をどのように考えるのかといったことが今後の大きな課題となっている。

本研究は、今後の子育て支援の方策に対する指針を得ることをねらいとして、北海道内に在住し、乳幼児を持つ母親を対象にして、1) 少子化現象と母親自身の子育ての意識や育児困難の関連性を検討すること、2) 少子化現象と地域間格差について検討することを目的とした。今年度は1) 少子化現象と母親自身の子育ての意識や育児困難の関連性の検討を試みた。

今回実施した調査においては、4つの検討課題について整理した。

1) 「理想として育てたい子ども数と将来の予定する子ども数のギャップ」に関連する要因の検討を行った。その結果、「理想として育てたい子ども数と将来の予定する子ども数のギャップ」に関連している要因として、家庭と住まいの要因は、「子どもを育てるのにお金がかかる」、「子どもを育てることが体力的につらい」、「今の世の中や将来に対して不安である」、「仕事との両立がむずかしい」の4項目が関与していることが明らかにされた。

2) 乳幼児を持つ母親の自由時間とその関連する要因の検討を行った。その結果、乳幼児を持つ母親の自由時間活用の状況は決して十分ではなく、家庭とその周辺で日常的に行われる活動は質量ともに貧しいことが示された。また、その自由時間の活動内容は、母親

の年齢、母親の教育歴、母親の就労の有無、世帯の収入、世帯タイプといった諸特性と関連していることが明らかにされた。

3) 育児期の子どもをかかえた家庭における夫婦および親子の共同行動に関連する要因の検討を行った。その結果、夫婦および親子の間の共同行動は決して高いものではなく、特に夫婦の共同行動は乏しいものとなっていた。生活習慣として夫婦より親子の間の共同行動が重視されている実情が示されていた。また、親子の共同行動は、世帯タイプ、世帯の収入、母親の年齢、母親の教育歴、母親の就労の有無、父親の年齢と関連していることが明らかにされた。

4) 育児期の子どもをかかえた家庭における父親の家事・育児分担と母親の就労の有無との関連性を検討した。その結果、1) 父親の家事・育児分担の状況は決して十分ではなく、子育ての負担は母親に過度に集中しており、父親の家事・育児分担は定着したものとなっていない。2) 父親の家事・育児の分担関係には、母親の就労の有無が影響している。3) 父親の役割として、母親への心理的な支援や子どもの社会性の発達への関与を求められている。4) 母親の就労していない家庭の父親は、伝統的な性役割慣行に基づいた考え方が続いていることが明らかにされた。

ただし、今後ともこの種の研究調査は多面的な視点から分析されるべきであろうことから、厚生労働省の一層の本委員会への継続的なご支援をお願いするものである。

平成13年3月31日

調査研究委員会委員長 佐藤 秀紀

目 次

まえがき

I 調査研究組織	1
II 調査方法	2
III 調査結果	4
1. 「理想として育てたい子ども数と将来の予定する子ども数のギャップ」 に関連する要因の検討	17
分担研究者 佐藤秀一 青森県立保健大学	
2. 乳幼児を持つ母親の自由時間とその関連する要因の検討	23
主任研究者 佐藤秀紀 青森県立保健大学	
3. 育児期の子どもをかかえた家庭における夫婦および親子の共同行動に 関連する要因	32
分担研究者 鈴木幸雄 北海道医療大学	
4. 育児期の子どもをかかえた家庭における父親の家事・育児分担と母親 の就労の有無との関連性	40
主任研究者 佐藤秀紀 青森県立保健大学	
IV まとめ	49
V 資料	
1. 調査研究実施要綱	51
2. 調査票	70

I 調査研究組織

少子化の要因と地域分析に関する調査研究委員会

委員長 佐藤秀紀（青森県立保健大学健康科学部教授）
副委員長 鈴木幸雄（北海道医療大学看護福祉学部助教授）
委員 佐藤秀一（青森県立保健大学健康科学部講師）

（1）調査内容検討専門委員会

委員長 鈴木幸雄（北海道医療大学看護福祉学部助教授）
委員 佐藤秀一（青森県立保健大学健康科学部講師）

（2）分析専門委員会

委員長 佐藤秀一（青森県立保健大学健康科学部講師）
委員 鈴木幸雄（北海道医療大学看護福祉学部助教授）

Ⅱ 調査方法

1. 調査対象地域・調査対象の選定方法等

本調査研究の目的および調査方法を明確にするために、少子化の要因と地域分析に関する調査研究実施要綱（以下、「実施要綱」という）（資料1）を少子化の要因と地域分析に関する調査委員会（以下、「調査委員会」）が定めた。

この実施要綱にしたがって、調査委員会およびその中に設けられた調査内容検討専門委員会において作成した「少子化の要因と地域分析に関するアンケート」（資料2）を用いて調査研究を実施した。

調査の対象は、北海道内において、合計特殊出生率の低い地域のS市（合計特殊出生率：1.32）を選定し、その地域の保育園および幼稚園に通園している子どもの母親800名とした。

2. 調査事項および方法

調査方法は、調査票を作成し、各保育所および幼稚園の担当者を通じ、本人への配布・回収を行った。

調査内容は、1) 家庭と住まいの状況、2) 母親自身の状況、3) 夫の家事・育児の参加状況、4) 子育てについての考え方とした。

家庭と住まいの状況に関しては、現在の子ども数、将来の予定する子ども数、理想として育てたい子ども数、育てたい子ども数と実際の子ども数の違いの理由、家族形態、母親の実家との距離、父親の実家との距離、住居のタイプ、居住年数等とした。

母親自身の状況に関しては、母親の年齢、母親の教育歴、母親の結婚時の年齢、母親の育児体験、母親の就労の有無、母親の職歴、母親の社会的活動、母親の平日に使用している自由時間、母親の自由時間の活動、母親の交友関係、専業主婦に対する仕事に関する要望、母親の雇用形態、母親の職業、母親の出勤時間、母親の帰宅時間、母親の収入（月平均）、母親の仕事についての悩みや不満、母親の就労観、母親の就労継続の意思等とした。

夫の家事・育児の参加状況に関しては、家事・育児への参加状況、夫に対する評価、父親の年齢、父親の雇用形態、父親の職業、出勤時間、帰宅時間、夫婦での共同行動、家族での共同行動、父親の収入等とした。

子育てについての考え方に関しては、子育てする上での支え、子育てする上での困難、子育てする上での相談相手、本人の問題に対しての相談相手、育児サービスの要望、子育てする上でのサポート状況、自分にとっての子どもの存在、子育てに関する意見に対して等を調査項目とした。

解析に当たり、まずすべての調査項目に対し記述統計で検討した。さらに、1) 少子化現象と母親自身の子育ての意識や育児困難の関連性を検討すること、2) 少子化現象と地域間格差について検討した。

なお、調査対象者800名のうち、回収ができた688名（回収率86.0%）の資料を分析した。

上記の通り実施要綱に従い調査を実施したが、その実施は平成12年10月上旬から下旬までの3週間の間に行い、対象者から調査票が回収された。

回収された調査票は「分析専門委員会」において集計と解析を行い、最終的に本委員会が本報告書を作成した。なお、集計ならびに解析は青森県立保健大学健康科学部のSPSSを用いた。

Ⅲ 調査結果

【結果】

1. 基本属性等の調査項目の分布

家庭と住まいの状況については、子どもの数（N=688）が、平均1.97人、標準偏差 0.86であった。

第1子の有無について（N=688）は、「有り」が688名（100.0%）、「無し」が0名（0.0%）であった。第2子の有無（N=688）は、「有り」487名（70.8%）、「無し」201名（29.2%）であった。第3子の有無（N=487）は、「有り」162名（23.5%）、「無し」526名（76.5%）であった。第4子の有無（N=162）は、「有り」27名（3.9%）、「無し」661名（96.1%）であった。第5子の有無（N=27）は、「有り」8名（1.2%）、「無し」680名（98.8%）であった。

第1子の平均年齢について（N=688）は、平均が6.43歳、標準偏差が3.46であった。第2子の平均年齢（N=487）は、平均4.61歳、標準偏差3.21であった。第3子の平均年齢（N=162）は、平均3.70歳、標準偏差2.95であった。第4子の平均年齢（N=27）は、平均4.26歳、標準偏差2.90であった。第5子の平均年齢（N=8）は、平均3.00歳、標準偏差3.43であった。

育てたい子ども数と実際の子どもの数の違いの理由（N=323）は、その肯定率に着目すると、「子どもを育てるのにお金がかかる」が214名（66.3%）、「子どもを育てることが体力的につらい」が157名（48.6%）、「仕事との両立がむずかしい」が119名（36.8%）、「今の世の中や将来に対して不安である」が109名（33.7%）、「夫の協力・理解が少ない」が70名（21.7%）、「家が狭い」が65名（20.1%）、「親の協力・理解が少ない」が27名（8.4%）、「子どもがなかなか産まれない」が21名（6.5%）、「子どもを育てることが精神的負担である」が21名（6.5%）、「子どもを産み育てることが困難とはなっていない」が4名（1.2%）の順となっていた。なお、「その他」は59名（18.3%）であった。

育てたい子ども数と実際の子どもの数の違いの理由の中で1番目に障害となっていること（N=426）は、「子どもを育てるのにお金がかかる」が153名（35.9%）、「子どもを育てることが体力的につらい」が84名（19.7%）、「仕事との両立がむずかしい」が65名（15.3%）、「子どもがなかなか産まれない」が25名（5.9%）、「今の世の中や将来に対して不安である」が22名（5.2%）、「夫の協力・理解が少ない」が22名（5.2%）、「子どもを育てることが精神的負担である」が11名（2.6%）、「家が狭い」が5名（1.2%）、「親の協力・理解が少ない」が5名（1.2%）、「子どもを産み育てることが困難とはなっていない」が1名（0.2%）の順となっていた。なお、「その他」は33名（7.7%）であった。

育てたい子ども数と実際の子どもの数の違いの理由の中で2番目に障害となっていること（N=369）、「子どもを育てるのにお金がかかる」が87名（23.6%）、「今の世の中や将来に対して不安である」が68名（18.4%）、「子どもを育てることが体力的につらい」が66名（17.9%）、「仕事との両立がむずかしい」が59名（16.0%）、「夫の協力・理解が

少ない」が32名（8.7%）、「家が狭い」が29名（7.9%）、「子どもがなかなか産まれない」が7名（1.9%）、「親の協力・理解が少ない」が4名（1.1%）、「子どもを育てることが精神的負担である」が2名（0.5%）、「子どもを産み育てることが困難とはなっていない」が1名（0.3%）の順となっていた。なお、「その他」は14名（3.8%）であった。

家族形態（N=683）は、「父母+子」が472名（69.1%）、「父母+子+祖父母」107名（15.7%）、「母+子」59名（8.6%）、「母+子+祖父母」32名（4.7%）、「その他」13名（1.9%）であった。

母親の実家との距離（N=680）は、「一緒に住んでいる」が58名（8.5%）、「歩いていける距離」が124名（18.2%）、「車や電車で1時間以内」が259名（38.1%）、「車や電車で1時間を超える道内」が170名（25.0%）、「北海道外」が49名（7.2%）、「その他」が20名（2.9%）であった。

父親の実家との距離（N=623）は、「一緒に住んでいる」が67名（10.8%）、「歩いていける距離」が101名（16.2%）、「車や電車で1時間以内」が197名（31.6%）、「車や電車で1時間を超える道内」が154名（24.7%）、「北海道外」が62名（10.0%）、「その他」が42名（6.7%）であった。

住居のタイプ（N=684）は、「一戸建て持ち家」が251名（36.7%）、「分譲マンション等の持ち家」が59名（8.6%）、「借家・アパート・マンション（賃貸）」が180名（26.3%）、「公営（道・市・町営・雇用促進）住宅」が113名（16.5%）、「社宅・官舎」が36名（5.3%）、「公社・公団住宅（賃貸）」が5名（0.7%）、「間借り」が1名（0.1%）、「親等の家に同居」が30名（4.4%）、「その他」が9名（1.3%）であった。

居住年数（N=683）は、「1年未満」が75名（11.0%）、「1～3年未満」が185名（27.1%）、「3～5年未満」が150名（22.0%）、「5年以上」が273名（40.0%）であった。

母親自身の状況に関しては、母親の年齢（N=683）は、「10代」が1名（0.1%）、「20～25歳未満」が27名（4.0%）、「25～30歳未満」が130名（19.0%）、「30～35歳未満」247名が（36.2%）、「35～40歳未満」が211名（30.9%）、「40歳以上」が67名（9.8%）であった。

母親の教育歴（N=682）は、「中学校卒業」が56名（8.2%）、「高等学校卒業」が308名（45.2%）、「専門学校卒業」が128名（18.8%）、「短期大学卒業」が130名（19.1%）、「四年制大学卒業」が53名（7.8%）、「大学院卒業」が7名（1.0%）であった。

母親の結婚時の年齢（N=674）は、「10代」が36名（5.3%）、「20～25歳未満」が302名（44.8%）、「25～30歳未満」が274名（40.7%）、「30～35歳未満」が48名（7.1%）、「35～40歳未満」が14名（2.1%）であった。

自分の子どもができるまでに他の子どもを抱いたり遊んだりしたことの有無（N=682）は、「よくあった」が249名（36.5%）、「たまにあった」が313名（45.9%）、「まったくない」が120名（17.6%）であった。

自分の子どもができるまでに他の子どもに食事を食べさせたり（ミルクを飲ませたり）、おむつを換えたりしたことの有無（N=681）は、「よくあった」が137名（20.1%）、「たまにあった」が230名（33.8%）、「まったくない」が314名（46.1%）であった。

母親の就労の有無（N=683）は、「有り」が218名（31.9%）、「無し」が495名（68.1%）

であった。

母親の職歴 (N=679) は、「仕事をしてきたが結婚がきっかけでやめた」が169名 (24.9%)、「仕事をしてきたが出産がきっかけでやめた」が126名 (18.6%)、「仕事をしてきたが結婚・出産以外の理由でやめた」が29名 (4.3%)、「これまで仕事についていない」が6名 (0.9%)、「現在も仕事を続けている (育児などの休暇後に仕事復帰した場合も含む)」が319名 (47.0%)、「その他」が30名 (4.4%)であった。

社会的活動 (N=688) は、「趣味・教養に関する習い事やサークル」が140名 (20.3%)、「ボランティア活動」が19名 (2.8%)、「PTAや地域活動」が156名 (22.7%)、「育児・子育てサークル」が52名 (7.6%)、「その他」が36名 (5.2%)であった。

母親の平日に使用している自由時間 (N=679) は、「まったくない」が39名 (5.7%)、「30分」が102名 (15.0%)、「1時間」が185名 (27.2%)、「2時間」が184名 (27.1%)、「3時間」が89名 (13.1%)、「4時間」が42名 (6.2%)、「5時間」が25名 (3.7%)、「6時間以上」が13名 (1.9%)となっていた。

母親の自由時間の活動 (N=688) は、「テレビを見たりラジオを聞く」が479名 (69.6%)、「新聞を読む」が290名 (42.2%)、「雑誌や本を読む」が405名 (58.9%)、「何もしていないのんびりしている」が218名 (31.7%)、「友達などに電話をかけたり手紙を書く」が208名 (30.2%)、「近所・友達の家に出かける」が125名 (18.2%)、「地域活動や社会活動をする」が19名 (2.8%)、「買い物に出かける・散歩する」が197名 (28.6%)、「資格・趣味のための学習をする」が66名 (9.6%)、「習い事に出かける」が14名 (2.0%)、「スポーツに出かける」が61名 (8.9%)、「カラオケに行く」が17名 (2.5%)、「パチンコに行く」が20名 (2.9%)、「お酒を飲みに行く」が18名 (2.6%)、「その他」が29名 (4.2%)となっていた。

母親の交友関係 (N=688) は、「学生時代からの友人」が429名 (62.4%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が350名 (50.9%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が155名 (22.5%)、「夫を通しての友人」が80名 (11.6%)、「近所や地域の人たち」が188名 (27.3%)、「仕事を通しての友人」が318名 (46.2%)、「趣味を通しての友人」が67名 (8.7%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が411名 (59.7%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が184名 (26.7%)、「その他」が18名 (2.6%)、「家族以外にあまりつき合いはない」が16名 (2.3%)であった。

専業主婦に対する仕事に関する要望 (N=216) は、「子どもを預かってくれるところがあれば今すぐにでもフルタイムで働きたい」が12名 (5.6%)、「子どもを預かってくれるところがあれば今すぐにでもパートタイムで働きたい」が18名 (8.3%)、「末子が3歳を過ぎた頃にフルタイムで働きたい」が3名 (1.4%)、「末子が3歳を過ぎた頃にパートタイムで働きたい」が16名 (7.4%)、「末子が小学校に入った頃にフルタイムで働きたい」が13名 (6.0%)、「末子が小学校に入った頃にパートタイムで働きたい」が86名 (39.8%)、「末子が中学校に入った頃にフルタイムで働きたい」が3名 (1.4%)、「末子が中学校に入った頃にパートタイムで働きたい」が16名 (7.4%)、「特に働こうとは思わない」が42名 (19.4%)、「その他」が7名 (3.2%)であった。

母親の雇用形態 (N=469) は、「民間企業の正社員・正職員 (常勤雇用)」が97名 (20.7%)、「公務・団体の正職員 (常勤雇用)」が93名 (19.8%)、「臨時雇用 (季節雇用

も含む)」が28名(6.0%)、「パートタイマー」が193名(41.2%)、「その他」が58名(12.4%)であった。

母親の職業(N=472)は、「事務(一般事務など)」が99名(21.0%)、「店員(スーパー・商店の店員など)」が44名(9.4%)、「営業・セールス(保険・自動車などのセールス)」が31名(6.6%)、「農・林・水産業」が20名(4.2%)、「運輸・通信(職業運転手、荷役などの運輸従業者、通信従業者)」が6名(1.3%)、「製造・建設業(製造、加工、組立、建設、修理などの従事者)」が15名(3.2%)、「工員・作業員」が13名(2.8%)、「理容・美容などのサービス業」が12名(2.5%)、「飲食店などのサービス業」が51名(10.8%)、「専門職・技術的職業(医師、看護婦、保母、教員、弁護士、税理士など)」が135名(28.6%)、「管理的職業(会社などの役員、管理職など)」が4名(0.8%)、「その他」が42名(9.6%)であった。

母親の出勤時間(N=471)は、「午前7時前」が10名(2.1%)、「午前7時～8時前」が87名(18.5%)、「午前8時～9時前」が211名(44.8%)、「午前9時～10時前」が59名(12.5%)、「午前10時～午後5時前」が26名(5.5%)、「午後5時以降」が13名(2.8%)、「決まっていない(交代勤務など)」が65名(13.8%)であった。

母親の帰宅時間(N=467)は、「早朝」が3名(0.6%)、「午前10時ごろ」が1名(0.2%)、「昼ごろ」が36名(7.7%)、「午後6時ごろ」が284名(60.8%)、「午後8時ごろ」が27名(5.8%)、「午後10時ごろ」が7名(1.5%)、「午後11時よりも遅い時間」が10名(2.1%)、「決まっていない(交代勤務など)」が99名(21.2%)であった。

母親の収入(月平均)(N=470)は、「2万円未満」が9名(1.9%)、「2～5万円未満」が55名(11.7%)、「5～8万円未満」が106名(22.6%)、「8～15万円未満」が114名(24.3%)、「15～20万円未満」が65名(13.8%)、「20万以上」が106名(22.6%)、「わからない」が15名(3.2%)であった。

母親の仕事についての悩みや不満(N=460)は、「勤め先が遠い」が22名(4.8%)、「勤務時間が長い」が21名(4.6%)、「夜勤や交代勤務がある」が20名(4.3%)、「残業が多い」が12名(2.6%)、「休みがとりにくい」が51名(11.1%)、「収入が少ない」が94名(20.4%)、「資格をいかせない」が5名(1.1%)、「雇用や身分が不安定」が27名(5.9%)、「昇給や昇進が遅い」が11名(2.4%)、「仕事の内容が難しい」が14名(3.0%)、「仕事の内容がつまらない」が4名(0.9%)、「仕事がつらい」が26名(5.7%)、「職場の人間関係がよくない」が20名(4.3%)、「その他」が12名(2.6%)、「特になし」が121名(26.3%)であった。

母親の就労観(N=465)は、「自分の能力を生かすため」が84名(18.1%)、「収入を得るため」が382名(82.2%)、「生きがい」が77名(16.6%)、「自分のプライドを満たしてくれる」が6名(1.3%)、「社会勉強」が27名(5.8%)、「自立のため」が55名(11.8%)、「他人がすすめるから」が1名(0.2%)、「技術を身につける」が13名(2.8%)、「他の人と接する機会をもつため」が101名(21.7%)、「その他」が31名(6.7%)であった。

母親の就労継続の意思(N=448)は、「いまの仕事を続けたい」が296名(66.1%)、「仕事の内容(職種)をかえたい」が49名(10.9%)、「勤め先をかえたい」が35名(7.8%)、「常勤の仕事にかわりたい」が18名(4.0%)、「パートの仕事にかわりたい」が

8名(1.8%)、「仕事をやめたい」が11名(2.5%)、「その他」が31名(6.9%)であった。

夫の家事・育児の参加状況に関しては、父親の家事・育児分担については、「休日や帰宅後に子どもの遊び相手をする(勉強をみる)」(N=610)は、「いつもしている」が269名(44.1%)、「ときどきしている」が242名(39.7%)、「あまりしていない」が79名(13.0%)、「まったくしていない」が20名(3.3%)であった。「子育てに関することで夫婦で話し合う」(N=609)は、「いつもしている」が184名(30.2%)、「ときどきしている」が285名(46.8%)、「あまりしていない」が102名(16.7%)、「まったくしていない」が36名(6.2%)であった。「あなたの悩みやグチを聞いてくれる」(N=608)は、「いつもしている」が182名(29.9%)、「ときどきしている」が250名(41.1%)、「あまりしていない」が129名(21.2%)、「まったくしていない」が47名(7.7%)であった。「保育園・幼稚園に子どもを送って行く(迎えに行く)」(N=607)は、「いつもしている」が107名(17.6%)、「ときどきしている」が249名(41.0%)、「あまりしていない」が134名(22.1%)、「まったくしていない」が117名(19.3%)であった。「あなたの外出中に子どもの世話をする」(N=610)は、「いつもしている」が252名(41.3%)、「ときどきしている」が237名(38.9%)、「あまりしていない」が84名(13.8%)、「まったくしていない」が37名(6.1%)であった。「子どもと一緒に風呂に入る」(N=610)は、「いつもしている」が263名(43.1%)、「ときどきしている」が252名(41.3%)、「あまりしていない」が63名(10.3%)、「まったくしていない」が32名(5.2%)であった。「子どもの着替えを手伝う(おむつを替える)」(N=608)は、「いつもしている」が140名(23.0%)、「ときどきしている」が266名(43.8%)、「あまりしていない」が119名(19.6%)、「まったくしていない」が83名(13.7%)であった。「子どもと一緒に夕食をとる(食事を食べさせる)」(N=611)は、「いつもしている」が224名(36.7%)、「ときどきしている」が228名(37.3%)、「あまりしていない」が123名(20.1%)、「まったくしていない」が36名(5.9%)であった。「子どもを寝かしつける」(N=609)は、「いつもしている」が91名(14.9%)、「ときどきしている」が218名(35.8%)、「あまりしていない」が172名(28.2%)、「まったくしていない」が128名(21.0%)であった。「子どもが病気のときに仕事を休んで看病する」(N=609)は、「いつもしている」が23名(3.8%)、「ときどきしている」が92名(15.1%)、「あまりしていない」が141名(23.2%)、「まったくしていない」が353名(58.0%)であった。「休日に家族を連れて出かける」(N=612)は、「いつもしている」が275名(44.9%)、「ときどきしている」が245名(40.0%)、「あまりしていない」が71名(11.6%)、「まったくしていない」が21名(3.4%)であった。「食品の買い物と一緒にいく」(N=611)は、「いつもしている」が208名(34.0%)、「ときどきしている」が272名(44.5%)、「あまりしていない」が75名(12.3%)、「まったくしていない」が56名(9.2%)であった。「食事をつくる」(N=611)は、「いつもしている」が39名(6.4%)、「ときどきしている」が177名(29.0%)、「あまりしていない」が164名(26.8%)、「まったくしていない」が231名(37.8%)であった。「食器を洗う」(N=611)は、「いつもしている」が51名(8.3%)、「ときどきしている」が169名(27.7%)、「あまりしていない」が154名(25.2%)、「まったくしていない」が237名(38.8%)であった。「お風呂の掃除や準備を

する」(N=610)は、「いつもしている」が73名(12.0%)、「ときどきしている」が207名(33.9%)、「あまりしていない」が136名(22.3%)、「まったくしていない」が194名(31.8%)であった。「ゴミ捨てをする」(N=611)は、「いつもしている」が145名(23.7%)、「ときどきしている」が148名(24.2%)、「あまりしていない」が119名(19.5%)、「まったくしていない」が199名(32.6%)であった。「部屋の掃除をする」(N=611)は、「いつもしている」が33名(5.4%)、「ときどきしている」が165名(27.0%)、「あまりしていない」が172名(28.2%)、「まったくしていない」が241名(39.4%)であった。「洗濯をする(洗濯を干すまたはたたむ)」(N=610)は、「いつもしている」が47名(7.7%)、「ときどきしている」が102名(16.7%)、「あまりしていない」が116名(19.0%)、「まったくしていない」が345名(56.6%)であった。「アイロンがけをする」(N=610)は、「いつもしている」が19名(3.1%)、「ときどきしている」が34名(5.6%)、「あまりしていない」が53名(8.7%)、「まったくしていない」が504名(82.6%)であった。「保育園・幼稚園のお便りを書く」(N=607)は、「いつもしている」が10名(1.6%)、「ときどきしている」が50名(8.2%)、「あまりしていない」が63名(10.4%)、「まったくしていない」が484名(79.7%)であった。「保育園・幼稚園の行事に参加する」(N=603)は、「いつもしている」が173名(28.5%)、「ときどきしている」が267名(43.9%)、「あまりしていない」が106名(17.4%)、「まったくしていない」が62名(10.2%)であった。「子どもの疑問や話しかけにきちんと答える」(N=611)は、「いつもしている」が346名(56.6%)、「ときどきしている」が189名(30.9%)、「あまりしていない」が66名(10.8%)、「まったくしていない」が10名(1.6%)であった。「子どもがいけないことをしたときには叱る」(N=611)は、「いつもしている」が434名(71.0%)、「ときどきしている」が143名(23.4%)、「あまりしていない」が23名(3.8%)、「まったくしていない」が11名(1.8%)であった。「写真をとるなどの子どもの成長記録をつける」(N=611)は、「いつもしている」が136名(22.3%)、「ときどきしている」が215名(35.2%)、「あまりしていない」が147名(24.1%)、「まったくしていない」が113名(18.5%)であった。「子どもを病院へ連れていく」(N=610)は、「いつもしている」が7名(12.5%)、「ときどきしている」が215名(35.2%)、「あまりしていない」が158名(25.9%)、「まったくしていない」が161名(26.4%)であった。

夫に対する評価については、「夫にもっと家事を協力してほしい」(N=599)は、「そう思う」が280名(46.7%)、「そうは思わない」が319名(53.3%)であった。「夫にもっと育児に参加してほしい」(N=598)は、「そう思う」が338名(56.5%)、「そうは思わない」が260名(43.5%)であった。「夫は子どもにきびしすぎる」(N=604)は、「そう思う」が81名(13.4%)、「そうは思わない」が523名(86.6%)であった。「夫は子どもにあますぎる」(N=602)は、「そう思う」が152名(25.2%)、「そうは思わない」が450名(74.8%)であった。「夫に子どもともっと遊んでほしい」(N=599)は、「そう思う」が334名(55.8%)、「そうは思わない」が265名(44.2%)であった。「夫は子どもにかまひすぎる」(N=601)は、「そう思う」が39名(6.5%)、「そうは思わない」が562名(93.5%)であった。「夫は子どもに無関心すぎる」(N=604)は、「そう思う」が63名(10.4%)、「そうは思わない」が541名(89.6%)であった。「子どものことにつ

いてもっと相談にのってほしい」(N=598)は、「そう思う」が184名(30.8%)、「そうは思わない」が414名(69.2%)であった。「夫は頼りにならない」(N=600)は、「そう思う」が84名(14.0%)、「そうは思わない」が516名(86.0%)であった。「夫には何を話してもムダだ」(N=602)は、「そう思う」が64名(10.6%)、「そうは思わない」が538名(89.4%)であった。「夫は仕事第一主義である」(N=602)は、「そう思う」が174名(28.9%)、「そうは思わない」が428名(71.1%)であった。「夫は私を人生のパートナーとして大切に思っている」(N=594)は、「そう思う」が430名(72.4%)、「そうは思わない」が164名(27.6%)であった。「夫は家族よりも趣味に没頭している」(N=602)は、「そう思う」が102名(16.9%)、「そうは思わない」が500名(83.1%)であった。「夫は家族よりも友人関係を大切にする」(N=600)は、「そう思う」が58名(9.7%)、「そうは思わない」が542名(90.3%)であった。「夫は何かと実家に頼りすぎる」(N=603)は、「そう思う」が72名(11.9%)、「そうは思わない」が531名(88.1%)であった。「男は仕事、女は家庭」という考えをもっている」(N=604)は、「そう思う」が193名(32.0%)、「そうは思わない」が411名(68.0%)であった。「夫は子育ては夫婦の責任だと思っている」(N=598)は、「そう思う」が425名(71.1%)、「そうは思わない」が173名(28.9%)であった。「夫は疲れている」(N=599)は、「そう思う」が394名(65.8%)、「そうは思わない」が205名(34.2%)であった。

父親の年齢(N=606)は、「25歳未満」が14名(2.3%)、「25～30歳未満」が62名(10.2%)、「30～35歳未満」が169名(27.9%)、「35～40歳未満」が220名(36.3%)、「40歳以上」が141名(23.3%)であった。

父親の雇用形態(N=602)は、「民間企業の正社員・正職員(常勤雇用)」が335名(55.6%)、「公務・団体の正職員(常勤雇用)」が142名(23.6%)、「臨時雇用(季節雇用も含む)」が35名(5.8%)、「パートタイマー」が0名(0.0%)、「無職」が3名(0.5%)、「その他」が87名(14.5%)であった。

父親の職業(N=600)は、「事務(一般事務など)」が62名(10.3%)、「店員(スーパー・商店の店員など)」が14名(2.3%)、「営業・セールス(保険・自動車などのセールス)」が77名(12.8%)、「農・林・水産業」が25名(4.2%)、「運輸・通信(職業運転手・荷役などの運輸従業者、通信従事者)」が57名(9.5%)、「製造・建設業(製造、加工、組立、建設、修理などの従事者)」が113名(18.8%)、「工員・作業員」が30名(5.0%)、「理容・美容などのサービス業」が5名(0.8%)、「飲食店などのサービス業」が17名(2.8%)、「専門職・技術的職業(医師、看護師、保育士、教員、弁護士、税理士など)」が110名(18.3%)、「管理的職業」が35名(5.8%)、「その他」が55名(9.2%)となっていた。

父親の出勤時間(N=597)は、「午前7時前」が111名(18.6%)、「午前7時～8時前」が238名(39.9%)、「午前8時～9時前」が154名(25.8%)、「午前9時～10時前」が26名(4.4%)、「午前10時～午後5時前」が7名(1.2%)、「午後5時以降」が4名(0.7%)、「決まっていない(交代勤務など)」が57名(9.5%)であった。

父親の帰宅時間(N=595)は、「早朝」が5名(0.8%)、「午前10時ごろ」が3名(0.5%)、「昼ごろ」が2名(0.3%)、「午後6時ごろ」が145名(24.4%)、「午後8時

ごろ」が196名（32.9%）、「午後10時ごろ」が130名（21.8%）、「午後11時よりも遅い時間」が41名（6.9%）、「決まっていない（交代勤務など）」が73名（12.3%）であった。

夫婦の共同行動について（N= 688）は、ここ半年間における夫婦の共同行動として、「テレビやビデオを見たり音楽を聴く」が363名（52.8%）、「買い物に行く」が250名（36.3%）、「映画・観劇・コンサートに行く」が39名（5.7%）、「外食する」が149名（21.7%）、「ドライブ・ハイキングに行く」が28名（4.1%）、「旅行・キャンプに行く」が7名（1.0%）、「スポーツをする」が24名（3.5%）、「ゲームをする」が45名（6.5%）、「カラオケに行く」が19名（2.8%）、「パチンコに行く」が39名（5.7%）、「家でお酒を飲む」が197名（28.6%）、「ゆっくり話をする」が218名（31.7%）、「その他」が18名（2.6%）であった。

親子の共同行動について（N=688）は、ここ半年間における親子の共同行動として、「テレビやビデオを見たり音楽を聴く」が515名（74.9%）、「買い物に行く」が555名（80.7%）、「映画・観劇・コンサートに行く」が124名（18.0%）、「外食する」が524名（76.2%）、「ドライブ・ハイキングに行く」が437名（63.5%）、「旅行・キャンプに行く」が348名（50.6%）、「スポーツをする」が116名（16.9%）、「ゲームをする」が215名（31.3%）、「カラオケに行く」が90名（13.1%）、「家でお酒を飲む」が84名（12.2%）、「ゆっくり話をする」が175名（25.4%）、「その他」が15名（2.2%）であった。

父親の収入（N=615）は、「200万円未満」が45名（7.3%）、「200～300万円未満」が56名（9.1%）、「300～500万円未満」が205名（33.3%）、「500～700万円未満」が159名（25.9%）、「700～1000万円未満」が113名（18.4%）、「1000万円以上」が37名（6.0%）であった。

子育てについての考え方に関して（N= 688）は、子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が215名（31.3%）、「夫の協力が得られやすい」が313名（45.5%）、「親戚などの協力が得られやすい」が246名（35.8%）、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が340名（49.4%）、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってくれていること」が497名（72.2%）、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が264名（38.4%）、「その他」が51名（7.4%）であった。

1番目に子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が49名（7.5%）、「夫の協力が得られやすい」が190名（29.2%）、「親戚などの協力が得られやすい」が84名（12.9%）、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が97名（14.9%）、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってくれていること」が171名（26.3%）、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が32名（4.9%）、「その他」が27名（4.2%）であった。

2番目に子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が79名（13.4%）、「夫の協力が得られやすい」が65名（11.0%）、「親戚などの協力が得られやすい」が75名（12.7%）、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が117名（19.8%）、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってくれていること」が1

46名(24.7%)、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が91名(15.4%)、「その他」が18名(3.0%)であった。

子育てする上での困難(N=688)は、「寝不足になる(体が疲れる)」が317名(46.1%)、「自分の時間がもてない」が418名(60.8%)、「何かとお金がかかる」が331名(48.1%)、「子どもが思い通りにならずイライラする」が295名(42.9%)、「こんな育て方で、ちゃんと育てくれるのだろうか不安になる」が363名(52.8%)、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が38名(5.5%)、「子どもにかまけてばかりで、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が60名(8.7%)、「自分のしている育児が評価されない」が34名(4.9%)、「その他」が40名(5.8%)であった。

1番目に子育てする上での困難(N=643)は、「寝不足になる(体が疲れる)」が120名(18.7%)、「自分の時間がもてない」が161名(25.0%)、「何かとお金がかかる」が112名(17.4%)、「子どもが思い通りにならずイライラする」が87名(13.5%)、「こんな育て方で、ちゃんと育てくれるのだろうか不安になる」が132名(20.5%)、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が3名(0.5%)、「子どもにかまけてばかりで、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が2名(0.3%)、「自分のしている育児が評価されない」が1名(0.2%)、「その他」が25名(3.9%)であった。

2番目に子育てする上での困難(N=559)は、「寝不足になる(体が疲れる)」が96名(17.2%)、「自分の時間がもてない」が125名(22.4%)、「何かとお金がかかる」が96名(17.5%)、「子どもが思い通りにならずイライラする」が88名(15.9%)、「こんな育て方で、ちゃんと育てくれるのだろうか不安になる」が112名(20.0%)、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が8名(1.4%)、「子どもにかまけてばかりで、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が15名(2.7%)、「自分のしている育児が評価されない」が8名(1.4%)、「その他」が8名(1.4%)であった。

子育てする上での相談相手(N=677)は、「学生時代からの友人」が49名(7.2%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が39名(5.8%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が12名(1.8%)、「夫を通しての友人」が1名(0.1%)、「近所や地域の人たち」が14名(2.1%)、「仕事を通しての友人」が21名(3.1%)、「趣味を通しての友人」が5名(0.7%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が196名(29.0%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が12名(1.8%)、「夫」が252名(37.2%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が11名(1.6%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が44名(6.5%)、「その他」が9名(1.3%)、「特に誰もいない」が12名(1.8%)であった。

最も子育てする上で頼りになる相談相手(N=677)は、「学生時代からの友人」が49名(7.2%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が39名(5.8%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が12名(1.8%)、「夫を通しての友人」が1名(0.1%)、「近所や地域の人たち」が14名(2.1%)、「仕事を通しての友人」が21名(3.1%)、「趣味を通しての友人」が5名(0.7%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が196名(29.0%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が12名(1.8%)、「夫」が252名(37.2%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が11名(1.6%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が44名(6.5%)、「その他」が9名(1.3%)、「特に誰もいない」が12名(1.8%)であった。

2番目に子育てする上で頼りになる相談相手(N=642)は、「学生時代からの友人」が67名(10.4%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が94名(14.6%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が32名(5.0%)、「夫を通しての友人」が1名(0.2%)、「近所や地域の人たち」が16名(2.5%)、「仕事を通しての友人」が47名(7.3%)、「趣味を通しての友人」が8名(1.2%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が134名(20.9%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が35名(5.5%)、「夫」が105名(16.4%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が10名(1.6%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が90名(14.0%)、「その他」が1名(0.2%)、「特に誰もいない」が2名(0.3%)であった。

3番目に子育てする上で頼りになる相談相手(N=577)は、「学生時代からの友人」が75名(13.0%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が93名(16.1%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が30名(5.2%)、「夫を通しての友人」が2名(0.3%)、「近所や地域の人たち」が21名(3.6%)、「仕事を通しての友人」が49名(8.5%)、「趣味を通しての友人」が8名(1.4%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が84名(14.6%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が47名(8.1%)、「夫」が49名(8.5%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が13名(2.3%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が96名(16.6%)、「その他」が4名(0.7%)、「特に誰もいない」が6名(1.0%)であった。

最も本人が悩んだ時の頼りになる相談相手(N=672)は、「学生時代からの友人」が130名(19.3%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が22名(3.3%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が12名(1.8%)、「夫を通しての友人」が2名(0.3%)、「近所や地域の人たち」が8名(1.2%)、「仕事を通しての友人」が43名(6.4%)、「趣味を通しての友人」が7名(1.0%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が147名(21.9%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が7名(1.0%)、「夫」が267名(39.7%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が3名(0.4%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が1名(0.1%)、「その他」が6名(0.9%)、「特に誰もいない」が17名(2.5%)であった。

2番目に本人が悩んだ時の頼りになる相談相手(N=598)は、「学生時代からの友人」が134名(22.4%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が45名(7.5%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が27名(4.5%)、「夫を通しての友人」が5名(0.8%)、「近所や地域の人たち」が14名(2.3%)、「仕事を通しての友人」が65名(10.9%)、「趣味を通しての友人」が8名(1.3%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が169名(28.3%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が16名(2.7%)、「夫」が94名(15.7%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が3名(0.5%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が4名(0.7%)、「その他」が8名(1.3%)、「特に誰もいない」が6名(1.0%)であった。

3番目に本人が悩んだ時の頼りになる相談相手(N=487)は、「学生時代からの友人」が96名(19.7%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が63名(12.9%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が25名(5.1%)、「夫を通しての友人」が4名(0.8%)、「近所や地域の人たち」が10名(2.1%)、「仕事を通しての友人」が61名(12.5%)、

「趣味を通しての友人」が17名（3.5%）、「自分の親やきょうだいや親戚」が94名（19.3%）、「夫の親やきょうだいや親戚」が21名（4.3%）、「夫」が52名（10.7%）、「専門家（医師・保健婦・電話相談など）」が9名（1.8%）、「保育園・幼稚園の先生や職員」が11名（2.3%）、「その他」が3名（0.6%）、「特に誰もいない」が21名（4.3%）であった。

育児サービスの要望に関しては、「乳児保育（出産後・出産休暇後できるだけ早く預かってくれる）」（N=617）は、「特に必要」が148名（24.0%）、「できれば必要」が277名（44.9%）、「現状でよい」が148名（24.0%）、「必要ない」が44名（7.1%）であった。「病児保育（子どもが軽い病気の時にも預かってくれる）」（N=626）は、「特に必要」が186名（29.7%）、「できれば必要」が280名（44.7%）、「現状でよい」が113名（18.1%）、「必要ない」が47名（7.5%）であった。「障害児保育（一般の園で障害児を預かってくれる）」（N=621）は、「特に必要」が216名（34.8%）、「できれば必要」が271名（43.6%）、「現状でよい」が116名（18.7%）、「必要ない」が18名（2.9%）であった。「早期保育（朝の保育開始時間を早める）」（N=621）は、「特に必要」が101名（16.3%）、「できれば必要」が232名（37.4%）、「現状でよい」が243名（39.1%）、「必要ない」が45名（7.2%）であった。「延長保育・預かり保育（保育終了時間を延ばす）」（N=637）は、「特に必要」が191名（30.0%）、「できれば必要」が234名（36.7%）、「現状でよい」が190名（29.8%）、「必要ない」が22名（3.5%）であった。「夜間保育（夜間も子どもを預かってくれる）」（N=624）は、「特に必要」が90名（14.4%）、「できれば必要」が222名（35.6%）、「現状でよい」が230名（36.9%）、「必要ない」が82名（13.1%）であった。「休日保育（日曜・祝日にも子どもを預かってくれる）」（N=631）は、「特に必要」が129名（20.4%）、「できれば必要」が256名（40.6%）、「現状でよい」が174名（27.6%）、「必要ない」が72名（11.4%）であった。「一時保育（一時的・緊急的に子どもを預かってくれる）」（N=632）は、「特に必要」が199名（31.5%）、「できれば必要」が290名（45.9%）、「現状でよい」が123名（19.5%）、「必要ない」が20名（3.2%）であった。「親子で参加する育児教室事業」（N=618）は、「特に必要」が43名（7.0%）、「できれば必要」が192名（31.1%）、「現状でよい」が331名（53.6%）、「必要ない」が52名（8.4%）であった。「電話による相談事業」（N=615）は、「特に必要」が49名（8.0%）、「できれば必要」が165名（26.8%）、「現状でよい」が356名（57.9%）、「必要ない」が45名（7.3%）であった。「家庭訪問による相談事業」（N=615）は、「特に必要」が30名（4.9%）、「できれば必要」が156名（25.4%）、「現状でよい」が351名（57.1%）、「必要ない」が78名（12.7%）であった。「児童手当などの増額・期間延長」（N=651）は、「特に必要」が410名（63.0%）、「できれば必要」が164名（25.2%）、「現状でよい」が70名（10.8%）、「必要ない」が7名（1.1%）であった。「子どもの医療費の減免の充実」（N=653）は、「特に必要」が489名（74.9%）、「できれば必要」が118名（18.1%）、「現状でよい」が42名（6.4%）、「必要ない」が4名（0.6%）であった。「その他」（N=25）は、「特に必要」が23名（92.0%）、「できれば必要」が1名（4.0%）、「現状でよい」が0名（0.0%）、「必要ない」が1名（4.0%）であった。

子育てする上で最も頻繁に頼む人（N=674）は、「学生時代からの友人」が7名（1.0%）、「保育園・幼稚園を通しての友人」が11名（1.6%）、「保育園・幼稚園以外の子どもを

通しての友人」が6名(0.9%)、「夫を通しての友人」が0名(0.0%)、「近所や地域の人たち」が13名(1.9%)、「仕事を通しての友人」が6名(0.9%)、「趣味を通しての友人」が4名(0.6%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が309名(45.8%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が105名(15.6%)、「夫」が174名(25.8%)、「有料の保育サービス」が16名(2.4%)、「その他」が9名(1.3%)、「特に誰もいない」が14名(2.1%)であった。

子育てする上で2番目に頻繁に頼む人(N=583)は、「学生時代からの友人」が18名(3.1%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が64名(11.0%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が14名(2.4%)、「夫を通しての友人」が2名(0.3%)、「近所や地域の人たち」が25名(4.3%)、「仕事を通しての友人」が11名(1.9%)、「趣味を通しての友人」が2名(0.3%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が120名(20.6%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が112名(19.2%)、「夫」が164名(28.1%)、「有料の保育サービス」が20名(3.4%)、「その他」が7名(1.2%)、「特に誰もいない」が24名(4.1%)であった。

子育てする上で3番目に頻繁に頼む人(N=404)は、「学生時代からの友人」が25名(6.2%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が56名(13.9%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が29名(7.2%)、「夫を通しての友人」が0名(0.0%)、「近所や地域の人たち」が30名(7.4%)、「仕事を通しての友人」が13名(3.2%)、「趣味を通しての友人」が1名(0.2%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が62名(15.3%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が62名(15.3%)、「夫」が68名(16.8%)、「有料の保育サービス」が13名(3.2%)、「その他」が2名(15.3%)、「特に誰もいない」が43名(10.6%)であった。

自分にとっての子どもの存在(N=688)は、「心の安らぎを与えてくれる」が309名(44.9%)、「いないとさみしい」が332名(48.3%)、「生活を充実させてくれる」が193名(28.1%)、「夫婦の関係をつなぐ」が128名(18.6%)、「社会の担い手となる」が7名(1.0%)、「生きがい」が174名(25.3%)、「自分を成長させてくれる」が296名(43.0%)、「自分の分身」が64名(9.3%)、「相談相手・話し相手」が54名(7.8%)、「老後の面倒をみてもらう」が4名(0.6%)、「家を継ぐ」が6名(0.9%)、「いざというときにあてになる」が10名(1.5%)、「一人の独立した個人」が119名(17.3%)、「生活に楽しさを与えてくれる」が422名(61.3%)、「その他」が8名(1.2%)であった。

子育てに関する意見に対しては、「子どもが小さいうちは育児に専念すべきである」(N=672)は、「そう思う」が212名(31.5%)、「ややそう思う」が250名(37.2%)、「あまり思わない」が114名(17.0%)、「そう思わない」が96名(14.3%)であった。「女性が仕事をするなら家事・育児の責任を果たした上ですべきである」(N=671)は、「そう思う」が94名(14.0%)、「ややそう思う」が224名(33.4%)、「あまり思わない」が213名(31.7%)、「そう思わない」が140名(20.9%)であった。「育児は父母が対等にすべきである」(N=671)は、「そう思う」が373名(55.6%)、「ややそう思う」が186名(27.7%)、「あまり思わない」が97名(14.5%)、「そう思わない」が15名(2.2%)であった。「子育てと家事だけで一生を終わらせたくない」(N=673)は、「そう思

う」が434名（64.5%）、「ややそう思う」が133名（19.8%）、「あまり思わない」が76名（11.3%）、「そう思わない」が30名（4.5%）であった。「子離れはできるだけ早くした方がいい」（N=673）は、「そう思う」が158名（23.5%）、「ややそう思う」が219名（32.5%）、「あまり思わない」が245名（36.4%）、「そう思わない」が51名（7.6%）であった。「育児期は子どもに自分の人生を犠牲にされるのも仕方がない」（N=668）は、「そう思う」が174名（26.0%）、「ややそう思う」が260名（38.9%）、「あまり思わない」が137名（20.5%）、「そう思わない」が97名（14.5%）であった。「育児によって母親は成長する」（N=673）は、「そう思う」が535名（79.5%）、「ややそう思う」が114名（16.9%）、「あまり思わない」が22名（3.3%）、「そう思わない」が2名（0.3%）であった。「できるだけ、自分の生き方・生活を大切にしたい」（N=669）は、「そう思う」が295名（44.1%）、「ややそう思う」が265名（39.6%）、「あまり思わない」が86名（12.9%）、「そう思わない」が23名（3.4%）であった。